

## 平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果について

調査実施日 平成27年4月21日(火)

調査の目的 ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る  
 ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる  
 ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

## 1 教科に関する調査結果

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科A	理科B
伊勢山小	66.1	61.7	75.2	46.3	54.0	57.9
横浜市	70.6	67.1	76.6	47.5	62.1	63.4
神奈川県	67.9	64.3	74.0	44.8	59.9	60.8
全国	70.0	65.4	75.2	45.0	61.3	60.5

## 2 全国の正答率と比較して

## 国語

	よい状況	課題と考えられる状況
国語A (主として知識)	話の内容に対する聞き方を工夫する	資料の中から、必要な情報を読み取りをする
国語B (主として活用)	目的や意図に応じ、取材した内容を整理したり、書いたりする	目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えて理解する

## 算数

	よい状況	課題と考えられる状況
算数A (主として知識)	半径の性質を理解して、円の中に二等辺三角形ができる理由を説明する	見取図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を理解する
算数B (主として活用)	平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質を理解する	割合の正しい求め方と答えを記述する

## 理科

	よい状況	課題と考えられる状況
理科A (主として知識)	基本的な実験器具の適切な扱い方を身に付けている	基本的な実験器具の名称を理解する
理科B (主として活用)	電磁石の働きを利用した実験結果を基に自分の考えを整理する	実験について、条件を整えながら比較して行うことを理解する

### 3 生活習慣・学習習慣（質問紙調査結果）

※質問紙は4段階で問われ、一番目と二番目により状況を分析したものです。

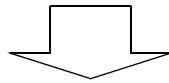
	項 目	伊勢山小	全 国
良い状況	家で、学校の宿題をしている	98.0	96.8
	朝食を毎日食べている	98.0	95.6
	人の気持ちが分かる人間になりたい	94.2	93.9
	理科の勉強が好き	86.3	83.5
	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している	80.4	76.4
課題と向き合われる状況	自分には、よいところがある	54.9	76.4
	読書が好き	54.9	72.8
	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	43.2	63.5
	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	41.1	62.8
	家で学校の授業の復習をしている	33.3	54.5

- 家で、学校の宿題をしている児童の割合は全国平均より高いが、自分で計画を立てて学習をしたり、授業の復習をしたりすることに課題がある。
- 朝食をしっかりととれている児童の割合は全国平均より高い。
- 人の気持ちが分かる優しい人になりたいと願っている児童が全国平均より高い。
- 難しいことでも挑戦しようとする意欲をもっている児童の割合は全国平均より高いが、自分には良いところがあると感じている児童の割合に課題がある。
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に対しての関心や、新聞を読んだり、読書をしたり活字に触れることに課題がある。

### 4 今後の指導の方向性

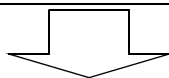
質問紙調査結果から、児童は様々な困難に対しても挑戦しようとする意欲がみられた。また、人の気持ちかわかる人間になりたいという、気持ちの優しい児童が多い。一方、自分自身への自信がもてず、自分のよさを認める自己肯定感や有用感が十分にもてないという課題があることがわかってきた。

そこで、引き続き様々な体験をもとに必要感や切実感のある学習の充実に努め、自分にも「よいところがある」という自信を培い、何事にも主体的に取り組めるようにしていく必要があると考える。



#### 「体験」と「言語活動」の充実

- 「覚えただけ」「体験しただけ」ではなく、覚えたことを体験を通して確実に身に付ける学習の充実



#### ○体験と言語活動の充実

授業の中で体験的な活動を重視するとともに、言語活動（説明、報告、記録、対話、討論など）を意識して取り入れることにより、自分の考えを表現したり、互いの考えや思いが交流したりする授業を行う。

#### ○基礎・基本の定着

朝の学習時間等を活用して繰り返し学習するなど、基礎・基本の定着を図れるようにしていく。また、読書習慣を身に付け情操を育む。同時に、授業中の私語の禁止など規律ある学習態度の形成を図る。

#### ○家庭学習の充実

低学年30分、中学年45分、高学年60分の家庭学習の時間を確保できるよう家庭と連携する。特に高学年においては、自分で計画を立て、主体的に学習に取り組む習慣を身に付け、そのことにより確かな学力が身に付くよう努める。

#### ○教師の研修・研究会の充実

日々の授業を「楽しく分かりやすくなるように」改善するため、日々の授業研究を充実させ、子どもたちが意欲的に授業に取り組み、話を集中して聞けるよう工夫していく。

ノート指導や発問指示、板書事項、ICT活用などを通して授業改善に取り組む。